

荒川パーキングを活用した地域活性化社会実験（新潟県村上市）

1. 実験の背景

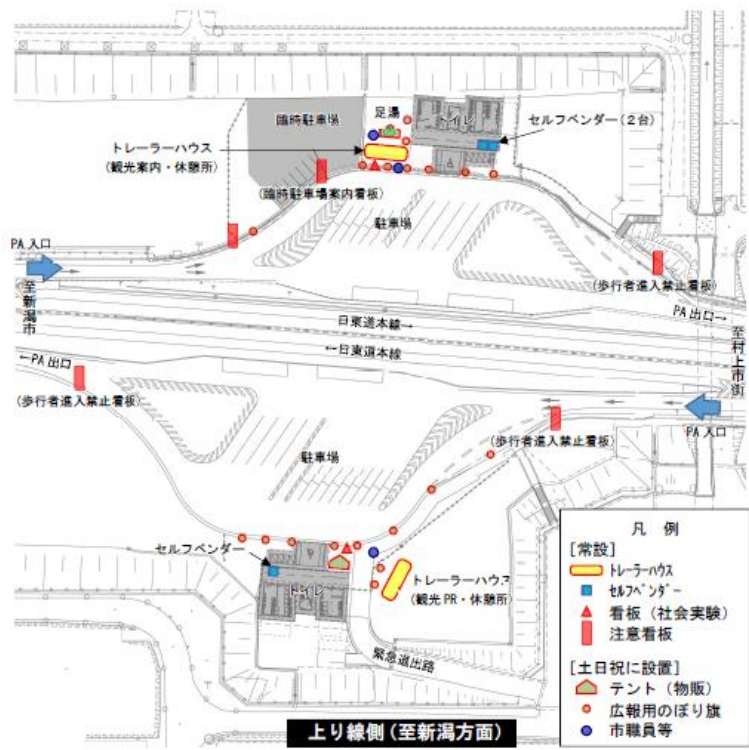
- 高速道路利用者に配慮した**休憩施設の不足**。
- 既存パーキング施設（道路休憩施設）の**地域経済活動の活性化に寄与する機能の不足**。
- 荒川PAは、新直轄区間に整備されたパーキングのため、上下線とも、駐車場、トイレ、自動販売機、簡易な掲示板のみであり、**他のサービスエリア等に比べサービス水準が低い**。

2. 実験の目的

- 荒川PAのサービス水準向上に向けた「道の駅サテライト化」の効果の検証。
- 長期的に魅力ある荒川PAとするための運営体制・維持管理方法の検討。

3. 実験内容

- (1) デジタルサイネージなどのICTを利活用した交通及び観光情報の発信
 - デジタルサイネージやWi-Fi等のICTを活用した交通情報、道の駅・市内観光情報の提供を実施し、道路利用者に対し発信する情報やサービス水準を検討する。
 - 道の駅のサテライトショップや市内観光物産のアンテナショップとして位置づけし、道の駅等と十分な連携を図り、村上市全体の地域活性化を図る。
- (2) 大規模災害時の避難場所としての効果的な活用方法の検討
 - 津波災害時等では、道路利用者の休憩所としてだけでなく、避難場所や支援物資の供給源として活用されるため、避難情報や交通状況などの各種情報提供が効果的に行えるように活用方法を探る。
 - 避難場所としての認知度を上げるため、当協議会にて避難訓練や環境美化活動、避難場所としての利用に必要な施設及び災害関連用品を考える防災ワークショップを、道路利用者や地域住民の参加型で実施する。



荒川PA内の配置平面図

4. 実験結果

(1) 情報配信機能の補完

- Wi-Fi接続率は荒川PA内をはじめ3%未満であり、PAから主要観光スポットへの移動状況を確認することもできなかった。(Wi-Fi環境)
- 下り線では利用率が約3割で、満足度66%と高評価である。(デジタルサイネージ)
- 観光コンシェルジュの利用率は約2割だったが、幅広い年代層に旬の地域情報を提供できるため、満足度76%と高評価である。(観光コンシェルジュ)

(2) 休憩機能の強化

- 下り線での利用率は約4割で、満足度76%と高評価である。上り線は利用者の導線から外れた位置に設置せざるを得なかったため、利用率が低かった。(トレーラーハウス)
- 満足度は80%を超えるが、利用率は10%程度である。(足湯)

(3) 地域連携機能の補完

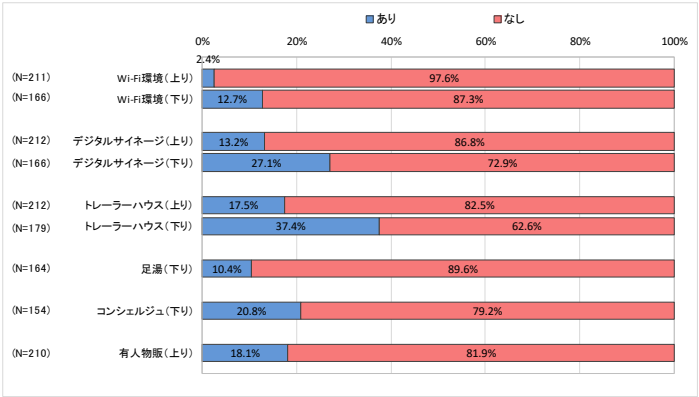
- 利用率は約2割、満足度は約64%で、おにぎりやお土産に対するニーズが認められた。(有人販売)
- 販売数49個、売上額は16,300円で、ニーズは認められるが伸び悩んだ。(無人ベンダー販売)

(4) 避難訓練・防災ワークショップ

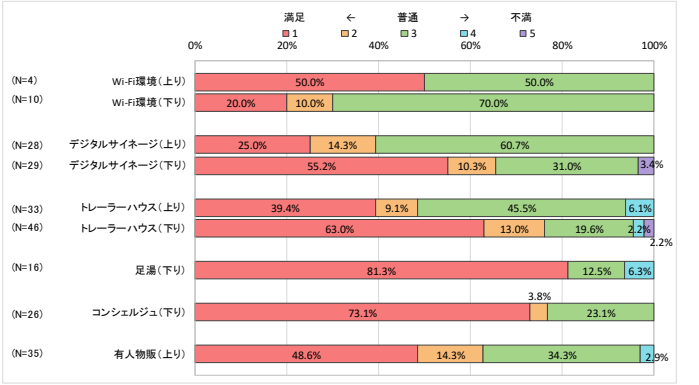
- 荒川PAに初めて立ち寄ったという方が多く、避難経路と施設の状況を確認できたことは有益であった。

(5) 地元住民からの愛着向上の取り組み

- 美化活動では、子ども達には『自分たちで地域をきれいにした』『地域に荒川PAがあることを自慢できるようになったらいい』といった機運が生まれた。



実験内容の利用率



実験内容の満足度

5. 本格実施に向けた課題

- 物販販売のあり方(維持管理費への売上の還元、イベントや広報活動との費用対効果)
- 安全管理(防犯、不審者対策)と各種申請手続き(簡素化、負担軽減)
- 運営体制
- 道路利用者、及び地域住民の導線への配慮(トイレ、緊急車両進入路との位置関係)
- 自動車専用道路における道路協力団体制度の指定化(全国に先駆けた制度の活用)